明治三十二年十二月十五日發行（明治二十一年[illegible]內務省許可）

婦人衛生雜誌

第百貳拾壹號

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百貳拾壹號目次

令旨

「去十一月例會に於ける總裁殿下よりの令旨」

本日茲に會員の方々と相見ることを得たるは周子の深く喜ぶ所なり顧ふに衛生の事たる人世の最も大切なることにて婦人の一家を治め子弟を養育する上に於ては皆よく斯の道を辨へ置かでかなはざることとなり

本會は役員幷びに會員諸氏の熱心なる協力により次第に隆盛に赴けるは誠に滿足する所なり只茲に一言諸氏に望むところは凡て婦人は衣服に意を用ゐること多きが爲めに集會などの席にありては自然衣服競爭の弊に陥ることなしとせず斯くては本會の趣旨にも違ふべければ會員は爾後ます〳〵質素と清潔とを旨とし流行に走るの風を避け成るべく一回も多く出席して有益なる講義を聽き自他を益し以て本會の目的を達せられんことを希望に堪へざる處なり

婦人衛生雜誌第百二十一號　（明治三十二年十二月十五日發行）

講演

●（十月例會に於て）

醫學博士・大澤謙二君　述

私は未だ演題を申上げて御座いませんが、只今となりましても別に名を附ける程の題でも御座いませんから、先づ題は無いとして御話を始めます。私が嘗て農事を致して遣り損ひを致したことが有る。それは二十日大根を蒔きました處が、大へんに細長くなりまして、一寸も株が出來ない、それから農民に相談を致しました處が、どうも斯樣な日照りの惡るい處に、澤山に種子を蒔いては不可、是れは成るたけ間を隙して、克く風の通る樣に致して、モッと日照りの宜い處を撰んで蒔かなければならない、モウ斯樣に細長くなつて仕舞つてからは、手の入れ樣もないと云つて笑はれたことが御座います。又或時は植木を大事に致さうと思つて、人からいろ〳〵話を聽きまして、或は油糟が宜いとか言はれると遣つて見る、干鰯が宜しいと言はれると之を遣る、それよりは米の洗汁が宜い……それを遣る……いろ〳〵致した處が、遂に植木が枯れて仕舞つた。今日の女子の教育に於きましても、或は私が今御話致したやうな事が有りはしないかと思ひまして、一言御話を致さうと思ふので御座います、女子の今日の狀態、就中十三四歲以上の女子の教育の狀態を視まするに、隨分負擔が重いかと思ひます。と申しまするのは、男兒で御座いますれば、先づ大抵學校で致したゞけの事で、家に歸つてからは、只其日に習ひたる事の御浚ひをする位ゐの事で濟むので有りますけれども、女子は家に歸つても亦課業がある、琴、

三絃線とか云ふ様な、音樂の稽古をもしなければならむ。それから上流の處になりますと云ふと、茶の湯も稽古をする、それから挿花も稽古をさせたい、畫もどうも學校だけでは足らむやうに思はれる、モウ少し上手に書かせたい、良い先生を取つて稽古をさせたい、或は和學もどうかモウ少し致させたい、歌も少しは詠める様に致したいと云ふ様な望が有る。其外に學校で裁縫の稽古は致すけれども、どうもあれでは漸く理屈が解つた位ゐであつて足らない、絹布物などは迚も手に懸ける譯に往かぬから、是れも特別に裁縫の稽古をさせなければならない。其外、段々數へ立てましたならば、未だ〱稽古をさせたいと云ふことが澤山有りませうと思ひます。お嫁に往くにも好い處に參れば宜いけれども、何う云ふ處に方附くか、又緣附いた上で、不幸の事に出遇しことが無いとは言はれない、先づ自身に料理をすることも覺へなければならない。其外舅姑の氣に適う様に、肩を打くとか云ふことも知らなければならない、それ故按腹の稽古も少し致して置くと、向來大きに爲めになるであらふと云ふ様な工合に、何でも彼でも遣らせる人が有る。或人の話に、稽古の爲めに娘に肩を打かせたら、初めは厭な心持がしたが、後には好い心持がして、毎日肩を打かせずには置かれない様になつて困つたと云ふ話があつたが、斯様に女子の敎育には、男子より澤山習はせたい箇條が多い様に思はれる。殊に音樂などは隨分早くより始めさせる樣で御座いますが、今申し立てた中の多分は、十三、四歳から十七、八歳までにしなければならないと云ふ様な狀態で有ります。丁度其頃の年齢は婦人の身躰に變化の起る時で、餘程注意をしないと、神經性の人となると云ふ様な次第で有りますが、丁度其變化の起る大切なる時と、諸種の稽古

をさせなければならん時とは衝突するので有ります から、餘程女は難儀で有らふと思はれる。併しながら多くは皆他に縁付けるので有りまするから、他所に遣つた上で、教育が缺けて居ると言はれてはならむと云ふ處からして、親も之を遣らせずに棄てゝ置くと云ふ譯には參らぬ。又實際、音樂など丶云ふものは、隨分學ばせたいと思ふのです。我邦の男子は音樂の事をば理解する力が甚だ乏しいので御座います。美術の中でも、音樂は最高等であると申します。演劇などは、口語、或は擧動に因つて其意を示すもの故、同し美術の中でも是れは下等である。繪畫になると、はや少し上等なると云ふのは其所作もなし、詞もない、併ながら其狀態を畫に顯はしあるので御座いますから、是れをば眼で見ることが出來る。處が音樂になりまするど云ふと、耳に聽くので有りまするから、是れに因つて感覺を動かすと云ふ

事は、餘程高尙の事で、理解力の有るものでないと出來ないとである、私共音樂に就て、情を動かすと云ふとは出來ない、餘程此點に於ては、御婦人方には、男子に勝つた御樂みがあると思はれる、それ故に音樂は、是非稽古をさせたいと思ふのです。併ながら僅かの時間に、餘りいろ／＼の事を習はせますと、私が先刻申しました植木の樣に、餘り肥料が多過ぎては、却つて枯れて了ひはしないかと云ふ恐れが有る、然らば是等の事は、一切廢めて了はうかと云ふに私も女の子を持つて居りまして、どうしたら宜からうと、彼れ是れ考へるので有りますが、どうも學課が多いから廢めると云ふことも出來ない。殊に今日は過度の時代でありまして舊弊の姑に新製の嫁と衝突は迚も免れぬとしても可成之を避ける爲に止むを得すして修めさする事であるのです、故に出來得べき事なら、學校の方で、今數へ立てた事をば悉

くとは參らんでも、今少し注意をして敎へて吳れる譯にはならぬか、勿論どの學校でも云ふ譯には參りますまいが、先づ中等以上の人の入學せんとする學校で敎へて吳れる譯には參るまいか、或學校で琴、挿花、茶の湯を特科として敎へたことが有る樣に覺へて居ります。何れ万遍なくと云ふ譯には參るまいが、特科として敎へることが出來るならば、遣てつ貰ひたい。學校では左樣な事まで敎へることが出來ないと云ふ事情も有るかも知れぬ、乃は私も研究が届いて居りませんが、なか〳〵學校から歸へつて、別に先生の處へ往くと云ふことは、時間も費え、又特に先生を聘すれば、之が爲めに要する費用も僅かでない、それ故隨分特科の爲めには、月謝なども餘程取り立てゝも宜からうと思ふので御座います。夫れが出來ると云ふことであれば、悉くでなくつても……、料理なとは學校で稽古させることは困難だらうと思ひますが、今日中等以上の社會に於て要すると云ふものは成たけ學校の方で出來る樣にして貰ひたいと思ふのです。けれども亦學校の方の側から申しますれば、今日敎へなければならない必要なる學科が澤山有る。それ故、迚てもなか〳〵爾うどうも殖やす譯には往かぬと言はるゝで有りませう。殊に敎育の當局者に於ても、どうも現今の學課では負擔が重いからして輕くしようと務めて居らるゝ時で有りますから、どうも私の注文などは、或は容れられんかも知れないと思ひますけれども、どうか一つ工夫をして貰ひたいと思ふので有ります。ヲ何故、此僅かの時間に是等の事をば學ばせんければならむかと申しますれば、早く他へ緣付けねばならむ：ならむのではない、早く緣付けやうと思ふのが親の冀望、是れが即ち一の重なる理由となつて、一時に澤山の肥料を施すと云ふ樣な事になるのではなか

らうかと思ひます。故にどうしても、敎へなければならむ必要の有ることであれば、時間を長くして敎へるより外仕方がない。私も色々考へて見ました處が、副課の爲に正課なる學校の敎育を今更減ずると云ふことも困難で有らうと思はれる。段々世が變遷致して參つて、益々進歩しつゝ往くこと故どうも學校の敎育を減ずる譯にも往かぬ。楠氏とは何う云ふ人、御醍醐天皇とは何う云ふ御方、倫敦とは何處の國の、何う云ふ都であるとか云ふ樣な、地理歴史の事も、少しは知識を持つて居らなければならない。是れからの人間は我々共とは違つて進んだ世に出やうと云ふので有りますから、それに必要なるだけの敎育を打棄てゝ置く譯には往かむと云ふ事であつて見れば、學校の課程も、爾う減らすことは出來まいと思ひます。さうしますと、氣永く、時を永くするより外仕方が無いと思ひます。私は曾て本會に於て「早婚の害に就て」と云ふ御話を致したことが御座います。其事は、雜誌にも出て居ると覺へて居りますから、今日の早婚は害惡等に就ては詳しくは述べませんが、只大躰の御話をしますれば、あまり年若で婚姻を致しましたのは、男子でもさうで御座いますが、就中婦人は餘程害を受け、二十歳以下で婚姻をしたものと、婚姻をしないものとを比へると、餘程婚姻をしたものゝ方に死亡數が多い。之に反して二十歳以上に達して婚姻をしたものは、餘程割合に死亡數が少ない。又年若かき夫婦の間に出來ました子はどうしても弱い。世界で往々總領の甚六などゝ申しますが總領か必ずしも馬鹿ではない、或は初めての兒であるが故に、之を愛するが爲めに、敎育が行屆かなかつたと云ふ點も有りませうが、幾分か親人の躰質が弱いと云ふことが加つて居るに相違ない。兎に角早婚者の子は病にも冒され易く、死に易い、何

れの點から見ても早婚と云ふことは宜しくないことであると云ふことを御話を致しました。親の方では、はや妙齢になると、間違ひでもあつてはならんと云つて成るたけ婚姻を急ぐから、世間が早婚の習慣になつて居りまする、故に二十三四歳になつて、未だ縁付かん人になりますと、何か事情でもありはしないかと、先づ痛くない腹を探らるゝことが出來致します。デ有りますから、二十歳から二十二、三歳迄に縁付けたいのが親の望みなるのみならず、未だ〱十六七歳でも望み手さへあつたら遣つて仕舞いたいと、斯ういふ親の責任逃れといふ様な意味から、早く方附けたいといふ爲めに早婚が流行するので有らうと思はれます。或は私が斯樣に申しますれは、日本では昔から早婚を致して參つたではないか、爾う云ふことであるならば、日本の人種は死絶えて了ひさうなものであるが、併ながら今日に至るまで決して左樣なことはないではないか、それのみならず日清戰爭の時に、日本男子の顯はした技倆は、實に大なるもので、して見れば、爾う心配を致すことは無いと云ふ御論も、或は出ませうと思ひます。けれども、昔日の狀態と、今日の狀態、并に向來の狀態とは、餘程狀態が變つて參る。婦人の爲すべき仕事が、今の處に於ても早や見らるゝ通りのことで有りまして、餘程昔と違つて、負擔が重くなつて居りまするから、成るべく身體の健康を計らなければならない。今申しましただけの稽古をば、どうしても廢めることが出來んならば、是れだけの稽古をする時間を延ばすより外仕方が無い、時期を延ばすのは決して妨げの無いことである、親共が、只、少し苦しいだけである、爾う致しまして先づ必要なるだけの教育を施すより外仕方が無いと思ひます……是れは先づ中年女子の教育に就ての考へで御

座います。是より女子の躰育に就て一言致します爲に年少の女子のみならず、年を取られた婦人即ち奥様方も、今日の處では、どうも身躰の健康に於いて不滿足なりと思はるゝ處が、なか／＼少なくない、今少しどうか丈夫にならるゝ工夫を考ふる事が必要で有らうと思ひます。度々人の申します通り、母の躰が丈夫でなければ、丈夫な小兒が出來ない。今日の小兒が、日本の未來を脊負つて立たねばならぬと云ふことでありますと、今日、其小兒の母たる婦人、即ち奥様方は健康であるといふことが最も必要で有ります。して見れば、未婚、既婚に拘らず、今日は身躰を強壯にする必要が有ると思ふ。然らば如何なる事を致して宜いかと云ふ事に就ては、どうも未だ私も確と致した論はない。此衞生會の席に於ても、躰育の必要に就ては、度々大勢からして御話になりまして、モウ會員の方は、又其話かと云ふ位ゐに、御聽き倦きになつたで有らうと思ひます。併ながら未だどうも、此躰育の事に就て、是れと云ふ良い方法を見出して、實行せられて居ることをば見ません、婦人の運動が不充分、躰育が不充分であると云ふことには何々原因が有らう、其原因をば除いて往つたならば、必ず是等の事も進んで來るで有らう、然らば原因となるべきものは、何で有らうかと考へて見ました處が色々ある。既に此事に就ても、段々御咄しが出たやうに存じます、勿論是れまでの習慣として、婦人は家に在つて内事を掌ると云ふ用が有る。育兒、家政の事はどうしても女子の與かるべき任務である、是れは已むを得ない事で有りますが、其外に、女は戸外に出ないものだ、坐つて居るものだと云ふやうな、是迄の習慣と云ふものが幾分か害を致して居ると思ふ。誰れやらの話に、奥様の名稱は、

奥に居らるゝから奥様、御内儀は家に居るから御内儀、おかみさんは、疊の上に坐つて居るからおかみさんと云ふのだと云ふ事を申しましたが、成程どうも、是等はさう云ふ處から來たもので有らうと思はれる。其外に、未だ原因が有る。ソレは先づ御婦人のからだに就ての事で御座いまするが、婦人には、足部でも、頭でも、顔でも色々運動を妨げる箇條が有る。先づ運動を致し慣れない事故、餘り運動をすると足が勞れると云ふことが有る。ソレからして餘り活潑の運動をすると、髪が壞れると云ふことが妨げになる、餘り日中に戸外に出ると、顔の色が黒くなる

是れ等の事も恐らく妨げになつて居りしと思はれる。其外、衣服、即ち帶、下駄などいづれも運動に適したものではない。下駄よりは雪駄の方が宜しう御座います、どうも下駄で御座いまするど、あの重い處の高い下駄は、なか／＼馴れても活潑に運動が出來ない、現に羽根を突かうと云ふ段になると、下駄は廢めて草履に移ることになる。其外衣服の運動に適して居らんと云ふことに就ては、先達てベルツさんの御演説が御座いまして、私も雜誌で拜見を致して御座いますが、袖の長いの、是れが運動を妨げる。それからして脚部には周圍に大分澤山の衣服が纏はれて居る、是れと同様妨となる。帶なども云ふものが、矢張り活動を妨げる。先づ此衣服に於きましても、餘程妨げになることが有ると思ひます。其外住家なども靴を穿いて、椅子に腰を掛けて居ると云ふ様になりまするど餘程運動が出來るのですが、どうも坐つて居ると云ふと、立ッて居るものは親でも遣へと云ふやうな、無精になる、是等も原因で有りませう。

其外御婦人方が、外に出て互に交際をなさる事の妨げにならうと思はるゝ箇條が有る、夫れは即ち

衣服に要する華美と云ふことである。近頃のやうに、衣服が華美に流れましては、餘程資産の有るものは格別、先づ通常の者は、こんな粗末な衣服では出られんとか、或は毎も同じ衣服では出れんとか云ふ様な事柄も餘程害になつて居らしと思はれます。

いつやらで御座いましたか、加藤君の御話に、どうも婦人衛生會で、衣服の共進會などは怪しからむ事だ、注意をしなければ可かむと言はれたが、是等は實に運動の妨げになる一つである。

ソレから一躰にからだが健康でない處から、充分に歩行き能はぬ一寸出るにも車に乗る隨て費用が増すと云ふやうなことも御座います。又互に往復して交際を致すには、種々品物の贈答を致す、是等どうも宜しくない習慣であつて、それからして御愛想といふて菓子を出す、或は未だ時刻にもならんのに、捕へて無理遣りに、食事の御馳走をすると云ふ様な事柄も、一時は宜い様で有りますが、併ながら是れも是非必要と云ふ事になつて參りますと、自ら交際の親密を妨げ、外に出る邪間になることで有らうと思ひます。私なども、先年朋友などの間柄で、贈答廢止會といふ會を企てましてもその仲間入を致しましたが、是等もどうも今日では跡方無しになつて了つた。昔からの習慣故、贈答廢止といふことは、容易に出來ないが、何にても妨げになるとは、何うかして除くと云ふ事の考へを致さむければならむ。

此外にも、妨害は隨分有らうと思ひますが、先づ一寸心附ましただけでも、婦人が運動をなし、戸外に出て、交際をすると云ふ事の妨げになる箇條か箇様に有ります。然らば是れ等を改めることが出來るか何うかと云ふに、遣る氣になつて遣れば出來ないことはないけれども、總て社會の事と云ふものは、己れ一人企てたからと云つても、其通りに出來るも

のではない、矢張り同志の者が相寄つて、共々に致すと云ふ覺悟を致さなければ、一人獨行では難い。先づ贈答であるとか、衣服を飾ると云ふ樣な事は、申し合はせて遣りましたならば、隨分出來ましやうと思ひます。ソレからして、袖が長いと、運動する時搦み附いて可けないから、成たけ學校の生徒には、筒袖を着せて吳れと云ふ樣な注文がある、是れとて改めたら出來ない事はなからうと思ひます。

ソレから御頭の方なども、段々承つて見れば、束髮の方が宜いと云ふことで有りますが、近來は束髮が少ない樣です、併ながら申し合せて致したならば、束髮などは隨分實行が出來ることで有らうと思ひます。先年女子高等師範學校で、繩飛などが始つて、大分面白がつて生徒が遣つて居つたが、髮が壞はれて了つて仕方が無いと云ふやうな事の廢めて了つた。彼れが束髮であれば、爾う云ふ妨になるとは有りますまいと思います。勿論歐羅巴では、束髮の上に帽子を被るから、髮の壞はれたのを隱すことが出來るけれども、日本人は帽子を被らんから、壞はれると始末に困ると云ふ樣な不都合も有りませうが、兎に角遣つて見れば容易に出來る事と思ひます。穿物の事は、なか〳〵困難、靴などを直に穿くことなどは容易に出來ない、又靴と云ふものが、必ずしも適當とは言へない樣に思ひます。併ながら下駄では尙ほ可けません、先づ草履か、雪駄を穿くやうに致したい。是れも裾があまり長いと妨げになりますから、成べく裾を短かく着る習慣を付けたら、出來ない事もなからうと思ひます。先刻申しました帶は、近來評判が惡るい、ベルツさんや、山根さんの帶を、非難せらるゝのも尤の事と思ひます、夏などは、婦人方も難義に感ぜらるゝことで有らうと思ひます。田舍に湯治に往つて帶なしで居つたら大へ

ん樂であつたと云ふやうな話は往々聽くことで有ります此帶も除き得るものならば除きたいが、さればとて細紐だけで居る譯にも往かむ。然らばどうしたら帶に換ふるものが出來るかと云ふに、是れは近來流行して居ります袴を着ける習慣を養成して參つたならば巾廣き帶を廢することも出來、運動の助けにならうと思ひます。實際に袴を着けた姿は、私共が見た處では誠に見宜いものである。就中襠無しより襠の有る方が餘程運動が容易く出來る。或は腰より下を歐羅巴の服の樣にしても宜からうと思ひます。袴ならば御婦人方に於かれましても、決して醜ひものでないと云ふ御感覺で御座いませう、之を着ける人が少ないもので御座いますから、今日まで一般に行はれんので有りますが、併ながら是等は段々に行はれて參りませうと思ひます。加之婦人の敎員などは、大分袴を着けられた方も多い樣で有ります、當會の會員、即ち中流以上の方々が、御協議になつて御奮發なすつたら隨分此流行を來たすことが出來得るものではないかと思ひます。

今申上げた事は身躰の運動を成るたけ自由にすると云ふ事と、それからして成たけ戶外に御出になる事、交際をなさるに就て妨げになる事を除きたいと云ふ考へで有りました。倘ほ又男子の方に於きましても、餘程注意を致さむければならぬ事が有ると思ひます。御婦人方と一所の席に列なりましても、殊に私共は左樣で御座います、一寸も、どうも御話は出來ないと云ふやうな處から、御婦人方は、御婦人方、男子は男子と分れる樣に見受けますが、是れら男子と女子と相寄つて、互に樂みを致すことになり、即ち男子が女子を伴ふて一所に樂みを致し、出るにも一所に出ると云ふ樣な習慣を養成しましたならば、餘程御婦人方の利益を增すことゝ思ひます。

必ずしも特種の運動でなくても、只外に出て運動をするだけでも大きに違うと思ひます。特種の運動の中では、羽根つきロンテシスなどは、餘程宜からうと思ひます。御婦人方は羽根を突くなど、云ふことを器用に成さる故、ロンテンスなどを爲すつたら、餘程器用に爲さるだらうと思ひますが、是れは何分にもからだを劇しく動かすこと故。長袖長裾ではむづかしい、先づ衣服の方が、なんとか工夫が出來ましたならば、是等は餘程宜からうと思ひます。總て何事でも爾うで有りますが、單獨で致すことゝ云ふものは永く續かぬもので有りますが。男子などでも學校に居る中は隨分躰操を致すもので有りますが、學校を出て後一人でダンベルを振り廻はすと云ふ樣なことは、なか〳〵出來ない、どうも一人で致すよりは、成たけ互に相寄つて樂む方が宜からう。ロンテンスでなくても球ころがしなども隨分面白い運動である、兎に角男女共々に運動をすると云ふことになりまするど、是等の事柄も屹度出來る樣になるで有らうと思ひます。今日は薙刀の事に就て御話が有ると云ふことで有りますが、何にしても一人で遣るよりは互に組を致して遣る方が興味が多いのみならず、競爭心が起つて皆勵んで致すことゝ思ひます、故に薙刀の事なでも至極好い思ひ付きで有ると存じます、何分今日の樣に奥樣では在になつては、先刻私の申した二十日大根の樣に、色が悪るく、ヒヨロ長くばかりなると云ふやうなことが大分有る樣で御坐いますから、是迎共是れは改めると云ふ考へで、奥樣が外樣となる程でなくとも、成べく運動は務められたい。元來戸外を運動すると云ふ事は、なかなか樂みなことで有りますから、少なくも日曜毎には子供を連れて、公園なり、野外なりへ散歩せらるゝ樣に希ひます。是れは子供も非常に樂みにして喜び

ますると、又奧樣方の御爲になること故、是非御奮發を願ひたい。先年私共申合はせ、互に子供を連れて寄合ふなど、云ふ協議を致し、子供共進會と云ふやうなことを致しましたが、これも段々仲間が減じて今日は行はれんので有ります。私も日曜日には子供に責め立てられて度々一所に出る、其節にも妻にも出ることを勸めまするが、どうも主婦が外に出ると云ふことは色々の都合があつて實際はなか／＼困難の事が有りますが、成べく前に申した點に御注意になりましたら、それだけの効能はあらうと思ひます。



●「ペスト」病豫防の心得

ペストの神戸地方に續發するや私立大日本衞生會は速やかに左の心得書を編輯して汎く一般に頒布せられ本會へも長與副會頭より數十枚寄送せられたるをもて本會は本月の例會々場に於て右報告の上來會員に頒ち併せて本號に掲載することゝなしぬ

「ペスト」病は諸種の傳染病中最も猛惡なる疾病にして從來支那印度の沿岸幷に臺灣に流行せるも是迄幸にして我内地には入らざりしが昨今端なくも廣島神戸に同病者を發生し殊に神戸に於ては漸次蔓延の徴候ありとの事なり果して然らんには實に由々しき一大事にして吾人同胞の不幸は申すに及ばず我國は世界各國との交通を遮斷せられ以て幾多の慘害を被ふるに至るやも計られず就ては我政府は此の「ペスト」病の防遏に就き十分施設せらるゝ所あるべしと雖ども國民各自の間に於ても亦相當の豫防準備を爲し官民相應ずるにあらざれば完全なる成績を擧ぐること能はずされば吾人は箇人の爲め又國家の爲め

大に之れが豫防撲滅に努力すべき秋なりと信ず依りて下に其の策を講じて同胞を警戒せんとす

「ペスト」病の豫防を行ふに就ては先づ「ペスト」病は如何なる病にして如何なる徑路より傳染するものなるかと云ふことを理解し置かざるべからず故に此の豫防心得は先づ是等の箇條を略記し後に其の豫防法を掲げたり

(第一)「ペスト」病は如何なる疾病なるか

「ペスト」病は猛毒なる「ペストバチルヽス」と稱する細菌が健康なる人體内に侵入して發する疾病にして其「バチルヽス」は先づ血液の中に混じ侵入部近邊の淋巴腺其他腹内の諸臟器に生育するが爲め何れも腫脹し加之血液の中にても生育するにより全身中何れの場所にも「ペストバチルヽス」の居らざる所なきに至る扨て其「バチルヽス」は劇烈なる毒物を產するものなれば之れが爲に四十度以上の高熱を發し且つ腦を侵して精神亂れ衰弱の爲め患者の十中八九分通りは斃るゝものなり

此項に於て世人の心得べきは左の二箇條なり

(一)「ペスト」病は「ペストバチルヽス」と稱する細菌の傳染に依りて發する病なること

(二)「ペストバチルヽス」は血液に混じて全身中到る所に存在すること

(第二)「ペスト」病の傳染は如何なる徑路によるか

扨て其「ペストバチルヽス」なる病毒は(一)如何なる所より現はれ出で(二)如何なる徑路を取りて(三)健康者の如何なる所より侵入するものなるか其徑路を知ることは豫防の第一の目的にして極めて大切の問題なりとす

世人の知れる如く虎列剌赤痢の如きも各々其病毒の

傳染に依りて發するものなれども傳染の徑路極めて簡單にして隨つて豫防法も亦簡便なる者なり即ち虎列剌、赤痢の如き病毒は病者の糞便若くは吐物に混じて體外に現はれ出で其出でたる病毒は健康者の口より侵入するのみなるを以て是點を警戒すれば足れりと雖ども「ペスト」病は之れに反して其病毒は病者の何れの處よりも出で健康者の何れの處よりも這入り又加之に實鼠の此病毒に感染し人間に傳染の媒介を爲す等の事ありて此「バチル、ス」程獰猛なる病毒は他に類を見ざるなり倘ほ詳しく述ぶれば左の如し

(一)病毒が病者の體外に出づる部位

「ペストバチル、ス」は病者の全身に充滿せるが故にあらゆる分泌物排泄物の中に混じて體外に出づるものなり其內「バチル、ス」が最も多く出で病毒散蔓の主原因となるは淋巴腺の膿なり前にも述べたる如く「ペストバチル、ス」は好んで淋巴腺にて生育繁殖する爲め腺は腫れ終に膿に化して自然に外部に漏るゝか又は醫療として之を切り破るときは絕えず膿汁出づ其膿汁には夥だしく「バチル、ス」を含むものなり其他「ペストバチル、ス」は病者の尿、糞便、咯痰、唾液、鼻液、帶下に混じて體外に出で又汗に混じて出づる塲合なきを保せず

倘病者の血液中には「バチル、ス」充滿せるが故に若し少しにても出血あれば其血液一滴中に數百萬の「バチル、ス」を混ずされば病中に咯血、衄血、痔血若しくば月經等あるときはこれと共に體外に出で又蚊、蚤、虱の爲めに血液を吸ひ取らるゝときは彼等小蟲の腹內に數十萬の「バチル、ス」を含み危險なる傳染の媒介を爲すなり尤も「ペストバチル、ス」は普通の塲合に於ては呼氣と共に體外に飛び出づるものにあら

ざれど咳嗽、「くさみ」等の場合には其憂あり

(二)病毒の健康なる者に這入る部位

既に述べたる如く虎列刺、赤痢、腸窒扶私等の病毒は人の口より這入り腸内に達せざれば疾病を起す働きなしと雖ども「ペストバチル、ス」は之に反して人の血液内に這入れば忽ち病を起す働きあり故に「ペスト」病毒の最も這入り易きは皮膚の創傷なりとす元來人の皮膚の表面には上皮と唱ふる薄き一層ありて之れに何物か付着するも彈じく力あれども若し其上皮に破損を生じ肉眼に見へざる程の微創を破ふるも其處に付着したる外物は悉く血液に吸ひ取る性あるものなりされば「ペストバチル、ス」も能く其處より血液内に這入るを得べし斯る微かなる創にても能く疑毒は這入り得るものなれば况して目に見ゆる程の創傷倒之へば胼胝、皹、逆創或は他の創口よりは容易に這入り得べし然るに其這入り込みたる創口には痛みも腫れも起らざるものなれば氣付かざるが常なれども若し手の創口より這入りたりとすれば腋窩の淋巴腺腫れ又足の創口より這入りたりとすれば鼠蹊の淋巴腺腫るゝが故に始めて之れを悟り得べし

要するに「ペスト」病毒の重なる這入口は創口なりと雖ども亦「ペストバチル、ス」を塵埃と共に肺に吸ひ込みて又飲食物と共に消化器に嚥下して其粘膜より血液に這入り込むことあり

(三)傳染の機會

(一)の條にて述べたる如く「ペストバチル、ス」は諸種の出口より體外に出づるものにして若しも其「バチル、ス」が體外に出でゝ直ちに死滅するものなりとすれば誠に安心なりと雖ども其「バチルルス」は人體外に於ても長く生命を保つ

性あるが故に諸種の道筋を取りて健康者に這入り込む機會多し例之ば左の如し

一、手足並に其他の皮膚を探索して微かにても表皮の損じたる箇所あれば「コロヂウム」又は「ワセリン」の類を塗り或は手袋を用ゐ且つ一日數回二十倍石炭酸水にて洗ひ又常に足袋を穿つべし殊に看護するもの並に汚物を取扱ふものに於て然りとす

一、飲料水使用水一般の飲食物並に其器具は煮沸して直にち用ゆべし

一、飲食物及其器物等は蠅帳の類を以て蠅類の襲來を防ぐべし

一、患者は蚊帳内にて養生せしめ蚊蠅を防ぐべし

一、家内の用ゆる衣類夜具の類は毎日々光に曝露すべし然るときは萬一病毒の付着することあるも之れにて滅殺し得べし

一、努めて家鼠を退治すべし然るに俄かに猫を飼ひ家鼠を脅迫するときは隣家に逃走りするの恐あるべし寧ろ他の方法を用ゆるが穩當ならん若し斃鼠を發見せば火箸等にて摘み之れを燒却し其斃鼠のありたる場所は石炭酸水等にて消毒すべし

一、衣類及身體は日々洗ひ清潔に保ちて病毒の付着するあるも生育せしめず又虱蚤等の繁殖を防ぐべし又可及的是等の昆蟲を捕獲して火中に投ずへし

一、看護するものは病者及其夜具其他一般の病者用器具に手を觸れ隨て病家の家族は病人より傳染せざることに務むるも裏道より鼠の所爲に依りて傳染すること往々あり

又病鼠は唯其棲住せる家内を汚すのみならず

或る機會には隣家に轉移し加之貨物等に潜みて遠隔の場所に轉住し以て大流行の原因となることあるべし

一、患者の血液を吸ひたる虱、蚊、蚤は「ペストバチル、ス」を含むと夥たし故に病血を吸ひたる小蟲に刺さるゝときは種痘すると同様に彼の口針を以て「バチル、ス」を皮膚に植へ付けらるゝなり

一、蠅は「ペスト」病毒に感染して斃るゝものにして其身體幷に糞尿に病毒を含み傳染を媒介す

一、病毒を含みたる排泄物等を地上に捨つるときは地中並に附近の井水等に混入して一定時日間は病毒生存す故に其地を跣足にて歩行し又其井水を使用並に飲用する場合

一、病毒は不潔にして且暗黒なる室内にては久時生存して傳染の機會を爲す

（第三）「ペスト」病の豫防法は如何にすべきか

「ペスト」病毒は右に述べたるが如き徑路を取りて傳染するものなるが故に之を豫防せんには其徑路を中斷し又一方には假令病毒に觸るゝも感受せざる道を講ぜざるべからず之を詳述すれば左の如し

病者なき前の注意

一、「ペスト」病ある家並に近邊に近くべからず

一、「ペスト」病毒は不潔にして暗黒なる場所には久時生存するものなるが故に家の内外並に人體衣服等を清潔に爲し彼の棲住に適せざる樣心掛くべし殊に蚊、蠅、虱、蚤等の退治を爲すを要す

一、「ペストバチル、ス」は日光に觸れ又乾燥するときは容易に死滅するものなるが故に家内に日

光を導き且つ可及的障子又は窓を開きて空氣を流通せしめ又衣類家具等は時々日光に曝露すべし

一、飲食物は必ず煮沸すべし

一、鼠は「ペスト」病の恐るべき傳染物なるを以て流行に先だち之れを驅除すべし又斃鼠ありたるときは其「ペスト」に斃れたるや否やの檢査を乞ひ大に警戒を加ふべし何んとなれば人間の「ペスト」病發生せざるに先んじ鼠の「ペスト」病流行することあるべければなり

一、皮膚の創傷ある人は相應の醫療を加へ又胼胝、皸の類は「ワセリン」或は「コロヂウム」を塗り封すべし又跣足にて徒歩すべからず

一、若し惡寒發熱等寒冒の如き容體あり又は熱なくも鼠蹊腋窩頸部の淋巴腺を探りて腫れ痛み等あれば迅速に醫療を加ふべし「ペスト」病は恐るべきものなりと雖ども早く治療を施せば治癒し易ければなり

一、「ペスト」病流行地より來る襤褸、古綿、紙屑、古着、古革、古毛布類は勿論一般の貨物等にも往々病毒の附着せることあるを以て出所の明かならざるか又は消毒せざる是等の物品は取扱ふべからず

病者を發生したるときの豫防法

(甲)傳染病院若くは隔離病舍に入院すべし

前にも述べたる如く一朝「ペスト」病に罹り長く就床するときは種々の原因に依りて其一家內は何もかも病毒にて汚さるゝ憂あるが故に其家族は虎列剌病又赤痢病に對する位の尋常の注意にては到底傳染を防ぐこと難く縱し其當時に於て傳染を免れたりとするも其後に至り何時發病するやも計られず終には其家屋を燒拂はざるべからざる不幸

難」にも遭遇せん依て醫師の診斷上「ペスト」病と定まりたれば迅速に病院に入院すべし然るときは自己の利益なるのみならず家族並に公衆一般に對する德義をも盡すべし

（乙）一家族に「ペスト」病者を出すときは病者を勸めて入院治療を受けしむべし然れども萬々已むを得ざる事情ありて自宅療養を爲さゞるべからざる場合には一家內は全部病毒に汚れたるものと認め左に記する箇條を嚴守し一刻も油斷あるべからず

一、手足並に其他の皮膚を探索して微かにても表皮の損じたる箇所あれば「コロヂウム」又は「ワセリン」の類を塗り或は手袋を用ゐ且つ一日數回二十倍石炭酸水にて洗ひ又常に足袋を穿つべし殊に看護するもの並に汚物を取扱ふものに於て然りとす

一、飲料水使用水一般の飲食物並に其器具は煮沸して直ちに用ゆべし

一、飲食物及其器物等は蠅帳の類を以て蠅類の襲來を防ぐべし

一、患者は蚊帳內にて養生せしめ蚊蠅を防ぐべし

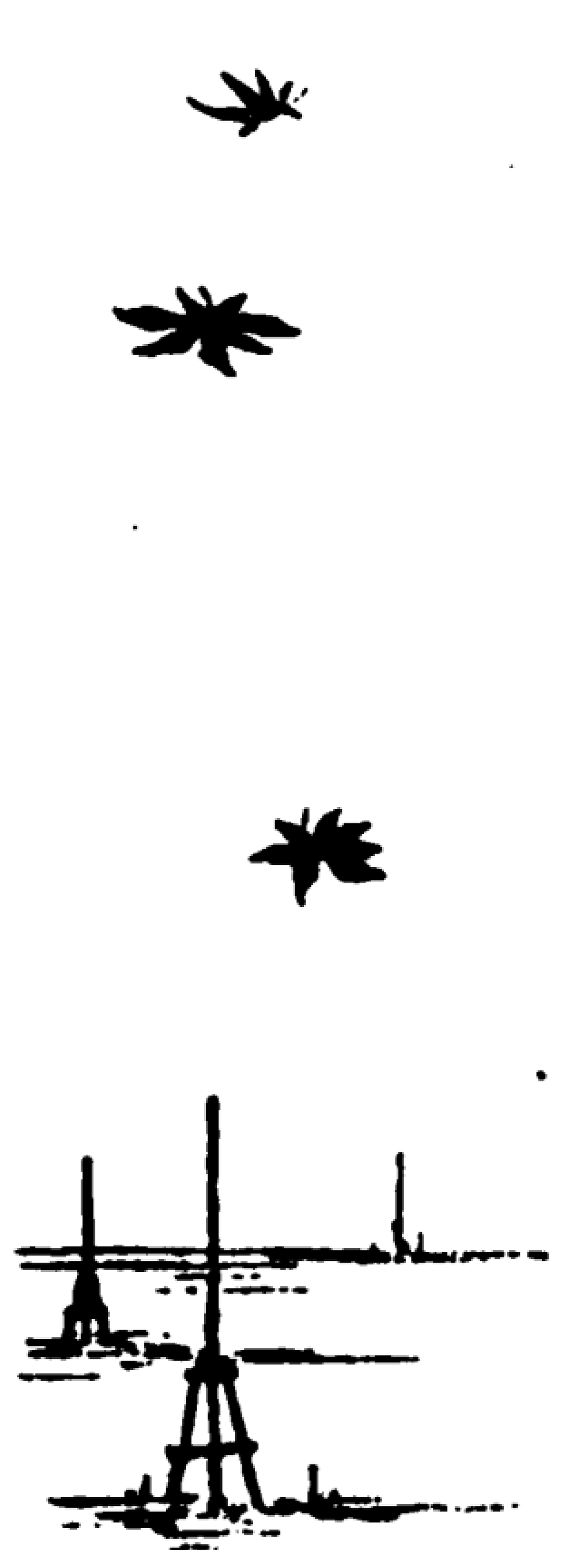
一、家內の用ゆる衣類夜具の類は毎日々光に曝露すべし然るときは萬一病毒の付着することあるも之れにて滅殺し得べし

一、努めて家鼠を退治すべし然るに俄かに猫を飼ひ家鼠を脅迫するときは隣家に逃走するの恐あるべし寧ろ他の方法を用ゆるが隱當ならん若し斃鼠を發見せば火箸等にて捕み之れを燒却し其斃鼠のありたる場所は石炭酸水等にて消毒すべし

一、衣類及身體は日々洗ひ清潔に保ちて病毒の付着するあるも生育せしめず又蝨蚤等の繁殖を防ぐべし又可及的是等の昆蟲を捕獲して火中に投

すべし
一、看護するものは病者及其夜具其他一般の病者用器具に手を觸れたるとき直ちに二十倍石炭酸水中に手を浸して叮嚀に洗ふべし
一、病者の肌に觸るゝ衣類は日々煮沸して取換へ又夜具は病者に直接せざる樣白布にて上覆を製し日々煮沸して取換ゆるを良とす
一、病者の膿汁、糞便、吐物、尿、略痰、唾液、鼻液帶下、血液等苟くも病者より排泄せるもの並にこれに汚れたるものは悉く消毒せざるべからず病者の皮膚を拭ふときは其布片を直ちに二十倍石炭酸水中に自己の手と共に浸して洗滌消毒すべし
一、病室並に他の屋室は塵埃の滯ふらざる樣清潔に爲すべし但し普通行ふ如く塵拂箒を用ゆることなく煮沸水殊に良好なるは石炭酸水をひたしたる雜巾を以て拭ふべし
又鼠の尿幷に糞塊には夥だしく「ペストバチルス」を含むを以て石炭酸水を霑ほしたる布片にて拭ひ取り共に燒却するか若くは消毒藥中に投入るべし
一、病者に用ゆる總ての物品は病者專用と爲して區別し置き決して健康者と共用すべからず又飮食器は每用後病室に於て煮沸消毒すべし殊に二十倍炭曹達水にて煮沸すれば確實なり
一、其他屍體の消毒家屋器具等の消毒實行の方法は其筋の注意に服從して嚴守すること緊要なり

（完）



寄書

雪の舍主人

烏兎匆々歳將さに暮れんとす世に感慨の情に堪へざらんや本年は至る處赤痢の患害を被らざる處なく此頃に至りては黒死病てふ疫病の襲來するさへありて上下胸々として檢疫消毒清潔法の勵行等尤も多忙多端なる日月なりき來る新年には惡疫の患ひを除き吾れ人共に安全なる歳月を送らんこそ望しけれ語に曰く天の未だ雨ふらざるに牖戸を綢繆すと今や新春を迎えんとするに際し聊か一月の衛生を略記して大方諸氏の猛省を請はんとす

◎一月の飲食物と遊戯

日本は古しへより正月は最大祝日として上下共に祝ふの慣習なるが退いて考ふれば一月の飲食物程不消化不攝生なるものはあらざるべし但し古しへよりの儀式なる飲食物を絶對的に廢止せしめんとにはあらず國粹保存的に其儀式を殘し置くことは宜しと雖へども今日に至りては總て古への儀式的食物を以て全然祝ふことは抑も〳〵末なりといふべし古しへの所謂儀式的食物とは如何何れも三ケ日は雜煮とて餅を續けさまに食ひ其副食物には奇妙にも悉く不消化なる數の子、豆、ごまめ、鱈の如き何れも乾物のみにして就中鱈の如きは實に不潔極まるものなり甚だしきに至りては臭氣の鼻に堪へざるものあり此等の物は其味ひもよく滋養にも富みたるものなれば兎も角なれども今日魚肉獸肉の供給も充分なる時代に方り何を苦しみて不消化物のこん立を爲すことを要せんや凡そ人は平素に異りたる慣習をかへ不消化なる食物を多く用ゆること程尤も健康に害あるものはあ

らじ正月の不攝生なることは誰しも皆承知し居りながら此舊習を脱せざるは誠に嘆ずべきことなり餅の如きは常ね〳〵食すべきものにあらず少しく食するは宜しけれども多食するときは忽ち胃に停滞を來しかてゝ加へてゴマメ鱈の如き乾物をツメ込み男子にありては至る處酒を強いられ二日酔、三日酔、酔歩蹣跚として歩するが如き不攝生も又甚だしと云ふへしサレバ此等不消化なる食物は儀式丈けに止め酒などは強ゆることを止めて正月の食物としては尤も消化し易き魚肉なり獸肉なりをもて其品類は少くとも適宜に調理せしならば從來の鬼〆の煮置きと不消化物の乾物とに比し其利益其甘味其愉快果して幾何ぞや然らざれば新年早々枕に就かさるを得さるの境遇に陷ることなしとせずされば正月の料理に就ては充分注意せられて健康を全たからしめんこと冀望に堪へざる處なり

其一は遊戯なり正月に至れば大人も子供も家の内外に打ちつどひて樂み暮すは是れ新年の情態なり故に新年の遊び方にして其好なれば其利益を受くること多しといへども之に反するときは直接に間接に其害を受くることも又少からずといふべし從來新年の遊び方は加留多遊び、花合せ、音樂、羽根つき、鞠つき、子供にありては凧をあげ雙六十六むさし等其種類多しといへども衛生上より觀察するときは加留多遊びの如きは多人數一室内に集まりて互に優劣を爭ふことなれば疊をたゝき埃をあげ炭酸瓦斯は室内に閉ち籠るか故に氣管支加答兒を起し埃の爲めに眼を害して結膜炎を起すこと等は往々に見聞する所なり且又加留多遊びの習慣として必らずや時ならぬ頃に飲食するが故に遂には胃を損ずるに至る故に加留多遊は衛生上決して善き遊びと稱することを得ざるなり然らば衛生上善き遊びは何々ぞ男兒の凧をあげ女

子の鞠つき追羽根の如きは戶外の遊戲にして新鮮の空氣を吸ひて知らず〳〵運動するが故に食物の消化もすゝみて身体の健康を益すこと少からず此等の遊びは正月に限らず平素の遊戲にも奬勵したきものなり次に音樂は人の心を樂しくするものなれば譬へ運動せずといへども社會上衞生上より其利益の多きものにして尤も優美なるものなり日本にては女子戶外の遊びは誠に其類少しといへども西洋にては種々快活なる遊も多ければ日本女子は進みて戶外の運動を圖らんことを望しけれ是等の事はもはや誰人も熟知せる事にて人々の口に唱へ居る事ながら實踐躬行を怠りてはイッ迄も改良進歩を圖ること能はざれは珍らしからぬ事ながら新年の將に來らんとするに際し一言玆に贅することゝはなしぬ。

衛生叢談

本年も最早僅かの日月を餘すのみで先づ新年となりますれば千門萬戶共に屠蘇を祝ひ來客には何れも酒類を出してもてなすは何れも同じ情態であります酒は婦人には餘り飲用するもの少きを以て此等の研究は誠に用なき樣でありますが賓客を接待するは婦人の責任でありますから又婦人の關係深く心得置かねばならぬことであります新年になりますれば其家々によりまして屠蘇も出ましやう日本酒もビール、ブランデー、葡萄酒、ベルモット、シャンパン、リキユルも出ましやうから是等の主成分アルコホルの多少利害得失は又知らなければなりません

●アルコール分興奮作用

總てアルコールを含める飲料物、幷に肉汁(ソップ)

の如きは、吾人の神經系統を興奮し之を飲用すれば一時氣力を增して、或は力が强くなりたやうな感覺を起す。去りながらソレは眞に我々の力を增したるに非ず只力を增すやうな感覺を與えるのでありますゆゑに滋養物を嗜好物で代用する事は出きませぬ、即ちソップを滋養物と考へて用ゐる事が數々有りますが、是れは眞の滋養物でありませぬ。アルコール分飲料物に於てアルコール分の最も多いのは、ブランデーにして。ブランデーを用ゐると、一時躰力が增加するやうな感覺を起し。歐羅巴に於ては、貧民は此ブランデーを澤山に用ゐます。ブランデーを用ゐれば、躰力が增すと思ふて、ソレを誤解して用ゐて居ますが、是れは決して躰力が增加するのでは有りません、却て其爲め反對の有樣に立ち至る事が有ります。又アルコールを含有する飲料物を日本に於て最とも多く用ゐるは、酒で有りますが、俗に酒は狂氣水と稱えるくらゐで、其アルコールを保つて居るものは、人の身躰と精神を害すると多く、加之ならず、其一身一家を救ふ可らざる程の不幸に立ち至らしむる事が有ります。去りながら一方には酒を用ゐた爲め或はアルコールを用ゐた爲め、身躰の動作を非常に强くならしめる動きが有る、言ひ換れば一時强く堪え得る事が出來る。又精神も同じ事で、精神の憂も酒の爲めに堪ゆる事を得べし。故に酒類は一は人の畏るべき敵なるが、一は其用方に因りて、人の信實なる朋友となる事も有ります。酒を用ゐて愉快になり且つ氣力を增したる感覺を起すは、其の酒の中に含有するアルコール性分の働きで有ります。

アルコール分の發生

其アルコールと申しますのは、砂糖或は澱粉質の發酵に因て、生ず即ち糀の如き物の爲めに糖類炭酸と

アルコールに分解す。

●アルコール分は消化を遲緩にし脈搏を激しくす

吾人の飮用する酒或はアルコールの、一部分は我らの身躰の中で分解炭酸及び水となり。一部分はアルコールとして我々の呼吸氣から排泄するのであります。又アルコール飮料物を用ると、我々の腸胃に於て、消化液の分泌が一時盛になッて、消化液を餘計にこしらへ出します。去乍らアルコールが腸胃に在れば、食物を溶解する事即ち食物の消化は遲しとすアルコールが胃に多量なれば、食物は消化せずして。動悸が激しくなり、即ち心臟の皷動が甚くなる。又脈が大變に早くなる。ソレから皮膚の表面、顔面などに於て血管がひろがッて、ソコに血が澤山循ッて來り。血液はアルコールを用ひると、主に內部に循らずして、外部の方に出る、ソレで顔が赤くなるのであります。而て血液が皮膚に集まれば、皮膚の神經爲めに温められて、恰も熱の出たやうにあつく覺ゆ。併し實際はアルコールが燃えて熱を起すのでは無く只血液が皮膚に往くから、皮膚に在る處の神經が温められて、熱く感ずるのであります。其次に運動も盛になり、氣力も淸々とするやうになり、勇氣の感覺を起すは。即ち我々の腦髓がアルコールの爲めに興奮さられて、氣分が淸々と致すので有りまする。然して其の次には精神も動作も今までよりも盛になり談話も知らず識らず聲高くなり。其次は魔睡す醉ひ倒れるに至る。故に酒を大變飮む人が前後忘却し、酒に醉て知らなかつた杯と言ふ併しながら其酒を適宜少量に用ゐて置けば、精神に於ても、身躰に於ても甚しき害はありません。

●暴飮の害

若し適宜の量を過すときは遂には醉ひ倒れ醉がさめ

ました時分も餘程氣分が惡い或は其翌日までも、氣分が惡くッて、頭痛がしたり、或は頭が重くなり又は食欲が無くなり、遂には言語に言ふ可らざる不快の感覺を抱く樣になります。所謂是れを二日醉と申しますが、御婦人方には決して斯う云ふ事は有りません、ケレども男子には殊によると酒を飲み過すやうなことが有ッて、二日醉いなどゝ申して、極く不快なる感覺になることとか有ります。ソレで又た酒を、多量にもちゆれば、感覺が餘程變じて、空腹い感覺を生うせずして、食事をわすれ或ひは、食欲を減んじ、酒醒むれば遂ひに眩暈を來たし、家がクル〳〵廻わるやうに感んじて來ることも有ります、ソレでアルコールは前にも申したる通り、決して滋養物では無い、只僅かに我々の身躰の中で燃えて熱を起し、又脂肪即ちあぶらの分解するのを、少し防ぐ効能が有る。併しながら又一方には、酒を暴飲する人は、常に腹胃の疾病を引起し、身躰の養ひも惡くなり、脂肪が少し殖えるから肥滿ます、其肥えたのは外上見から見へる通り、内部の大切なる器管に於ても矢張り、多くの脂肪を増し、脂肪が増せば、大切なる我々の内臓の働きが變し、又神經系統は、酒を用る爲に、始終刺激を受け、視感聽感等に於ても、眞正の働きを失ふに至り、或は酒を多量に用ゐ爲めに中毒症に陷り、聲の無きに聽き、物無きに視ると云ふ樣なる人も有ります。是れと同時に脳も變化し、又脳を包んで居る脳膜も變化して、遂に今御咄したアルコール中毒症に陷る。又兎角酒客は流行病の時も、其病いに罹り易い、例之は虎列刺病杯は酒を多量に飲む人に多く。又歐羅巴の瘋狂院を見まするど、其瘋狂院の患者は、酒の飲み過ぎから、狂氣になッたと云ふものが多くあります。

●ブランデーの害及諸種の

アルコール分量

アルコール飲料物の中で、甚敷風俗を亂し、且つ身躰を害するものは此アルコールを餘計に含て居る、ブランデーが一番甚しくあります

其ブランデーは百分中にアルコール四十五分乃至三十五分にして、殆んど其半分はアルコールを含んで居り。又ブランデーに因ッてジヤガタラ芋から造つた「ブランデー」が有りまするか是れは「フセル油」と云ッて、餘程僅かでも毒の強い物を含んで居ります。「リキウル」はブランデーと略同じ物で、アルコールを多量に含んで居ります、日本酒はブランデー杯よりも、アルコールを含んで居る分量少なし。則ち酒には、百分の中にアルコールが十一分より十三分ぐらゐを含んで居る、ソレから又葡萄酒は葡萄を搾りまして、其絞汁を醱酵させて葡萄酒に造るので有ります、其時に又一種の好い香ひを與えるものが出きる、ソレをブケと云ひます。葡萄酒にも、種々の種類があり、其種類に從て、アルコールの分量は異なれり、然ども葡萄酒百分中に、六乃至二十分のアルコールを含む、葡萄酒の中でも、ホルト酒はアルコールが十五分乃至四十分を含んで居り。又シヤンパンは百分中に八分乃至十三分のアルコールを含み。ラインで造る葡萄酒はアルコールの分量は少し葡萄酒の中には、赤葡萄と白葡萄の別あり、赤葡萄は赤い色素を含み且タンニンサンと云ふ物を含んで居り、其タンニンサンは、柿の澁と同じ物で、此物は或は腸胃の加多兒には、是れを輕くする効能が有ります、又砂糖の分量も種々の酒や葡萄酒に因て違ひますが、マラが酒と云ふのは、砂糖の分量が百分中に十分有り。ホルト酒は三分乃至五分シヤンパンは九分乃至十五分の砂糖を含んで居ります。ラインで出きまする、葡萄酒には極く僅かの分量で〇、二

乃至〇、四位いを含んで居ります。又日本の酒には、糖分が誠に少ない、百分中に〇、一四乃至〇、三九ぐらゐを含んで居ります、及純良の葡萄酒は先きに御話した通り、葡萄を絞ッた汁から醸造しますが。製造場より外に、即ち外國抔に輸出するには甚しく變化せざる爲めに、アルコール或は砂糖を多く入れて輸出しまするが、中に他色素を加え着色したるも有ります。葡萄酒は元來大變贋造物が多く有まして、其贋造をするには、眞の葡萄酒に水を入れ、或は砂糖を入れ、或は良い香の物を入れて贋造します。或は又葡萄を用ゐずに、外の物抔にて葡萄酒を贋造する事も有ります、又葡萄酒の中で、着色料に唐紅(砒石を含む物質)を入れて、赤く色附けたのが有りて是れは有害の物で有ますから、元より嚴禁しなければなりません。ソレデ今日本で販賣して居る處の葡萄酒には、贋造物が餘程多く。ペルツ氏抔も却て日本酒の方が葡萄酒よりも利益であると云ふ事を言はれて居ります。

◉一椀の米飯はビール一瓶に優る

次に麥酒は麥の芽にホップと云ふ蔓(苦ひ味ひを有すを入れて、水を加え醱酵させて造るので有ります麥酒にも種々の種類が有る、其種類を極く冷めたい、低い温度で釀した物と、高い温度で釀した物との二通りが有ります、ソレでアルコールの分量は、葡萄酒等と比較すれば、余程少なし。獨逸の麥酒には、百分中にアルコールは二分乃至五分位を含み、其外エ　スと申しますのが、百分中に四分乃至九分だけ含んで居ります、又蛋白質は極く僅かで百分中〇、一乃至一、八ぐらゐなるを以て。ビールを一瓶飲みまするよりも、一碗の御飯の方が養いになる。其外ビールには炭酸及び鹽類を含有せ〻、而して麥酒も外國に出しまするのは、アルコール分量を多く英

吉利ノハビールはアルコール分を一般に獨逸などよりも、餘計に含んで居ります。ビールは麥から製造えるのですが、麥五合で一升の麥酒が出來まする割合になッて居る、ソレで隨分食物の中で尊ぶべき麥を用ゐますから、經濟の點より云ッて見れば、隨分惡きものに相違御座いません、食物を潰して麥酒を製造し其麥酒は滋養分少なければなり

又有害の物質を入れたるものもありて誠に危險で有ります。ビールの中でも殊に醱酵の良くないビール即ち濁りました麥酒は屢々腹胃を害し、或は下痢を起すこともある、其外種々の害を致すことが有りますから、餘ほど御注意をなさらなければなりません。

●結論

アルコール分を多量に含んで居るものを常に少量用ゆれば敢えて身躰に害を來たす事も有ませんが之を多量に用ゐれば、用ゐる程、身躰の健康を害する事が甚だし。アルコール性の飲料物も、アルコールを含む分量少なければ、少ない丈に害少なし故に英國より。印度に送れる兵士ブランデーの飲用を止めしめ之れに交るに茶を用ひしめたるに餘程兵士の疾病に罹るものが少なくなッたと云ふ事で有ります。ソレでありますから此アルコールは多量に用ゐますと害がありますから成るべく少く用ゐる方が身躰幷に精神を健康にするには宜しう御座いますから新年になりましても其御積りで御注意ありたきものであります。



中外彙報

●大清潔法の決行

今回施行する市內の大清潔法は從來の如く貧富の度に依り手心を異にする如きとなく最も嚴重に施行する筈にして、塵芥掃除には市にて一万餘圓を投じ下水浚渫は例年の期日を速め塵芥掃除と並行せしめ全市內よりペスト媒介の恐れある不潔物を一掃する方針なりと聞く

●市內大清潔法施行

東京市にてはペスト豫防の爲め市內各戶に就て大清潔法を施行せしむるとに決定し去月廿五日より着手せし由其標準は左の如し

清潔法施行標準

(一)宅地の內外は清潔に掃除し雜草を芟除すると

(二)不潔家屋並に屋內(床下等)に塵芥あるもの等清潔法施行の必要ありと認むる家屋は貧富を問はず盡く什器及び疊敷物建具等を屋外に取出して大掃除をなさしめ尙疊敷物の類は日光に曝らして叮寧に掃塵し床下は清潔に掃除すると但濕潤甚しき床下には生石灰若くは乾燥せる土砂又は木灰等を撒布すること

(三)便所芥溜と水を特に掃除(芥溜は殘りなく腐土共取除くを要す)浚渫する事

但便所にして甚しく不潔なるものは其糞池及周圍に生石灰末若くは石灰乳を撒布すること

(四)飲料及雜用井戶にして不潔なるものは浚渫すること

(五)井戶側井戶流し臺所流し便所芥溜地內下水等にして破損せるものは期日を定め速に修理又は改造せしむること

(六)汚垢の衣類夜具等は可成洗滌せしむること

(七)掃除せる塵芥等は一定の場所に取集め可成燒却すること

(備考)先般水害に依り清潔法施行濟の箇所は特に其必要を認むるもの丶外本清潔法の施行を要せず

◉工場其他の清潔法注意

ペスト豫防の爲め工場を有する者は特に嚴重の清潔法を實施せしむる筈にて警視廳よりは左の注意事項を各警察署へ達したり

一、工場内は清潔法を專一とし掃集めたる塵埃は必ず燒却すること

二、特に便所は清潔を旨とし毎日之を掃除し掃除には格魯兒爾基又は石炭乳を撒注し下水は疏通を能くし瀦溜なからしめ淤泥は消毒の上危險なき場所に運搬する事

三、塵埃を生する工場には格に注意を要し掃除を怠るべからざるは勿論空氣の交換を十分ならしめ最も危險の場合には水にて濕ふせる布片を以て「レスピラトル」の代となすべきこと

四、抄紙の材料たる襤褸の如きは十分煮沸し或は蒸氣消毒の後に非ざれば一切之を取扱ふべからず危險の虞ある郵便物若くは貨物も消毒するを要すること

五、職工には普く健康診斷を行ひ若し疑はしきもののあるときは直に申告する事

六、職工にして皮膚粘膜等に創傷あるときは直に手當せしむる事又跣足は危險なるを以て必ず足袋若は草履等を穿たしむること

七、豫て皹藥を塗附し置き皮膚に皹裂又は缺損あるものには直に皹藥を塗附せしむること

八、患者ありたるときは供用する爲めに隔離所を設置すること

九、浴場を設けて入浴せしむると
十、各工場には相當の消毒藥を備ふると
十一、職工にして少しにても身體に違和を感じ又は發熱したるときは直に工場主又は警察官吏に申告せしむると
十二、皮膚粘膜には創傷を生じたるときは不取敢直に輝藥を塗附し工場主に申告せしむると
十三、衣服は常に洗濯し職工衣は蒸氣消毒を爲さしむると
十四、塵埃を生ずべき工場に從來する者は業を終りたる後顏面手足等に二十倍の石炭酸水にて消毒し入浴して歸宅せしむると

●又旅人宿、下宿屋、木賃宿營業者に對しての注意事項は左の如し

一、常宿泊人の健否に注意するは勿論兵庫大阪臺灣清國の如き有病地方より來着したる者に對し特に注意し若し疑しき者あるときは直に警察署官吏に屆出ると
二、夜具蒲團は時々日光に曝らし其襟には白布を纏ひ客毎に之を洗濯し又は蒲團白の敷布を用ゆ▲

貸夜具蒲團營業者の注意事項

一、貸夜具蒲團は常に清潔に洗濯し時々日光に曝らすと

◉ペストと家鼠

ペスト流行地に於て大いなる家鼠が其病毒を人身に傳ふることに就き去る十九日東京帝國大學敎授山脇醫學博士より西郷內務大臣へ寄せられたる書信中左の一節ありたり



抑も家鼠がペスト病毒傳播の重なる媒介たる所以は家鼠が人類同樣ペスト病に感染致候爲に有之候即ち流行地方に於ては一家ペスト患者を出すに先

ち既に病鼠を發見するの例少なからず候曾て臺北に於てペスト流行の際にも土人が夫の斃鼠病（鼠のペストにして人類のスペトと同じ病毒によりて起り候）に由て斃死せる家鼠の屍を怖るゝこと實に甚しく一家に在りて家鼠の死すること頻なるときは家を捨てゝ去るに到り申候是全く上述の經驗より來りたる次第に有之善く學理に適し候即ちペスト病にて斃れたる家鼠の屍はペスト病毒を包藏するが故に御座候則ち斃鼠病にて死せる家鼠の屍は周圍の土芥塵埃昆蟲等に介してペスト病毒を人身に傳ふることとペスト患者屍と同様に御座候云々

尚右の書信中にはペスト發生地及流行地方と交通頻繁なる地方に於て家鼠の死躰を發見したるときは其死躰を消毒の上焼燼すべき旨をも論述したる由

◎家鼠驅除の注意

家鼠はペストに感染すること人に異なるなく隨つて病毒傳播の媒介を爲すことあるに依り各戸に於て此際努めて其驅除方法を講じ且つ左の事項に注意すべき旨過日警視廳は諭告を發せり

（一）家鼠を捕殺し又は其屍躰を發見したるときは直ちに手にて取扱はず箸類にて取扱ひ之を焼却するか又は二十倍石炭酸水若くは千倍昇汞水を以て消毒の後埋却すること

（二）鼠には多く蚤の附着せるものなるを以て前項に依り取扱ふとき其蚤の人身に附着せざる様注意すること

◎郵便物と紡績屑糸の消毒

衛生局はペスト發生地より差立つる一切の郵便物を消毒の上發送せしむることに決し其旨各地方廳に通牒せり又た在大阪の北里博士より過日同局に向け紡績の屑糸も豫防上消毒の必要あるを認むる旨電報あ

り其筋にて稟議の結果其事に決したり

●ペスト患者の死亡百分比例

孟買、臺灣、牛莊等に於て發生せしペスト患者の死亡生存は左の割合なりと

	死亡	生存
孟買	百分の九十	百分の十
臺灣	百分の七十五	百分の廿五
香港	百分の八十五	百分の十五
牛莊	百分の八十五	百分の十五

又廣島、兵庫に發生せしペストの病勢は最も劇甚にて殆んど百中の百死亡するに當る程度なりと云ふ

●滊車檢疫法の改正

新橋、品川、大森の三停車場に於て實施せる滊車檢疫は乘客下車に際し一々容貌形躰に注目して疑はしきものを檢疫し來りしが實際却て混雜して効力少なきに付き更に檢疫醫を増して十一人となし左の各列車に於て委員を客車に乘込ましめ乘客の診斷を施すことゝなれり

神戸發新橋着	靜岡發新橋着
午前八時四十九分	午前一時五十五分
同十一時二十三分	午前三時三十分（濱松發）
午後六時五十二分	午前九時廿三分（大垣發）
午後十時三十一分	

●家鼠驅除禁止

香川縣廳に於ては過日來ペスト病豫防のため家鼠驅除方法として亞砒酸に護謨漿を混化し一紙片に包み以て管内各戸に毎日檢疫吏員を派し以て配付し以て驅除せしめつゝありしが内務省衛生局に於ては同配劑藥は頗る危險の虞れあるを以て其使用方を過日禁止せり

●ペスト豫防心得

ペストの神戸地方に發生するや人心恟々たる有様なれば此際充分の豫防法を講せざるべからず同病は次

第に蔓延の兆あり横濱にも三名の疑似症あり同病に感染したるものは初發より二十名にも達せんとすと内務省、警視廳、東京府、東京市に於ても日夜豫防法の勵行に忙はしく訓令諭達等に頻繁にして當局者の苦心も又想像するに餘りありといふべし今大森、兵庫縣知事同縣下に發したる告諭は一般公衆の心得として至て簡明なれば左に之を掲ぐ

ペストは一種微細なる黴菌の作用に依りて發する病にして其黴菌の性質に於ては他の種々の病原的細菌と異なることなく即ち彼は不潔なる場所殊に濕氣と共に且つ暗黒なる場所に在りては長く生存するのみならず蕃殖の速かなるものなり而して其人體に及ぼす所の經路はコレラ赤痢腸チブスの如くには狹隘ならずと雖も主として創面より侵入するものなり左に之が豫防方法の概略を示さん

「身體」に就て殊に手足其他の創傷はペスト病毒の入口なれば以下各項に依り注意すべし▲創傷面は二十倍の石炭酸水又は千倍の昇汞水を以て洗滌し尚ほ右の藥劑に浸せるガーゼ若くは晒布にて包むべし決してタモトクソ(袖底の堆塵)ミミツブシ古布切古紙等を用ふべからず▲指先のサカムケを生ぜざる様にし若し生じたるときは應急の手當として絆創膏又は即功紙等にて覆ふべし▲腫物は手療治をなすべからず▲楊枝等にて齒齦を損ぜざる様注意すべし▲髪は石鹸にて洗ふべし▲手足の爪は切去りて常に垢の溜らぬ様注意すべし▲齲齒は醫治を受くべし▲常に足袋を用ひて創傷を防ぐべし▲殊に勞働者は履物に注意すべし▲足袋股引襦袢の類は怠らず洗濯すべし▲身體に異狀を覺えたるときは速かに醫治を受くべし▲ペスト病は期を過たず相當醫治を受くるときは治癒するもの多し強ちに不治の病と信ずべからず▲清國及び臺灣地方

より來航せる船内に入り又は其荷物等に接せるものは少くも手足及び衣服を消毒すべし

「衣服に就て」衣服夜具の類は品質の良否に拘はらず清淨なるものを用ひ又時々日光に曝らすべし▲古着類は假令清淨なりと認め得べしと雖も其使用ふべからず▲貸蒲團には注意すべし▲衣類の貸借はせざるを可とす

「飲食物に就て」飲食物は總て熟煮したるものを用ふべし▲水は河泉井水の別なく必ず煮沸して用ふべし▲目下神戸市に供給せる水は濾過を經ざるを以て降雨の時杯には溷濁することありと雖も素質は善良なり▲牛乳は飲用するに當りて一時間以上湯煎に上ぼすべし▲飲食物を入るゝ所には鼠は勿論其他の動物の入らざる樣注意すべし

「住居に就て」屋内は毎朝怠りなく戸を開き又暗き所程叮嚀に掃除すべし▲敷物の類は時々日光に曝らすべし其濕拭することを得るものは拭ひて後日光に曝らすべし▲糞尿壺及び宅地周りの肥料壺は滿盛せぬ中に汲み取るべし▲糞尿壺等は破損の箇所なき樣注意すべし▲家周りの濕氣ある所は勾配を附け溝を設け塵芥等の散亂せざる樣注意すべし但溝の勾配を變ぜざる樣にすべし▲芥溜の芥は時々掃除すべし▲下水溝渠には廢水泥土塵芥等を溜むべからず

◉精神病者の病原

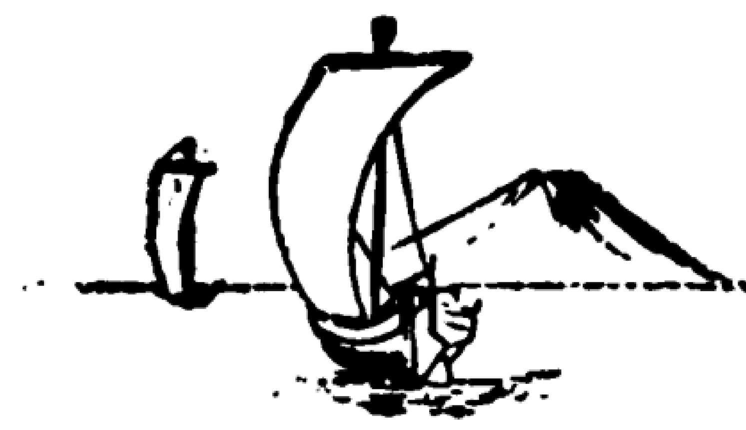
東京府立巢鴨病院へ入院せし精神病者にして客年中全治退院したるものゝ病原の種及び其人員を聞くに二種あり一は家事苦慮、戀愛的失意、離婚等の爲め發したる精神的誘因にして患者男九人女三十七人第二は腦膜炎、癲癇、黴毒、子宮病、アルコール中毒等より發する身躰誘因にして患者男五十人女三十七人合計百二十三人なりしと

◉赤痢患者十万七千人

近日各地方より衛生局に宛て通知し來りたる赤痢患者は一日間に二百五十五人發生せしことありて死亡者八百〇一人初發以來の患者總計は十万七千〇六十九人にして死亡者は二万三千三百三十六人に達せりと而して其中尤も猖獗なるは青森縣にして二日間の新患者は百五人十に至りしことあり死亡者は總計二千六百十二人なりしと云ふ

◉肉食者と蔬食者の心臓

蔬食者の心臓は心食者の心臓より其鼓動少しと醫師の實驗說に依れば蔬菜を食するものゝ心臓は一分時間五十八回の鼓動をなし肉食者の心臓は同時間に七十二回の鼓動をなすといふ故に菜食者は夏季に於てはその鼓動少なきが故に身躰に冷氣を感じ暑氣に堪へ得べきも嚴寒の際は肉食家の方遙に寒氣に堪へ得べしといふされば夏季は成るべく淡泊のものを食し冬季は濃厚なる肉食を爲すを尤も適當なりとす



◉肉食と罪惡の關係

米國にては近來取るに足らざる程の些細の感情の激發より無意識に大罪を犯す者頗なるを以て一醫士は深く此事に就き苦慮の餘種々調査をなせし結果米國民間には輓近著しく野菜を用ふる程度を減少したる爲め斯の如き精神上の作用を生せしむる一大原因なりと認めたゞ由是れ果して然るや否や肉食獸は一般獰惡なる者多し人間も肉を多食すれば矢張り獰惡なる畜生道に陷るとすれば釋迦が肉食を禁じたるが如きは亦道理ある樣にも思へり肉食と罪惡果して其關係ありとすれば國家醫學者に取りては大に研究すべき一問題ならん

（國家醫學會雜誌）



◉鎌倉醫院の新設

中濱醫學博士及び日本橋病院長岡本武次兩氏の計畫にて相模鎌倉町字長谷の大佛前に一の病院を新設するの計畫あり目下工事中の由なるが來る一月廿日頃開院し兩氏毎日交代にて出張する筈なりと

◉結核免疫法の新發見

目下佛國巴里パストール研究所に在りて專ら細菌學の研究中なる海軍々醫中監矢部辰三郎氏はコッホ氏すら同免疫法にては既に失敗し本年の萬國結核豫防會議にては免疫法は不明と決議せられたる今日新に結核菌中より毒素を抽出するを得之れを動物に注射試驗せるの結果良好なる成蹟を收めしより本月三日一論文を草し敎範へ提出し不日公表する筈なりと日々新聞に見えしが果して好結果を得れば實に斯學の一大名譽といふべし

◉アルミニユームの櫛

府下理髮業者は使用の器具に消毒を行ふことなりしが今回神田區末廣町小倉工場にては此消毒に適せしめんとてアルミニユームを以て製したる各種の櫛を發賣せるよし

官令

○内務省告示第百八號

明治三十三年第一回醫術開業試驗並藥劑師試驗擧行の地及期日左の通定む

明治三十二年十二月廿五日　内務大臣侯爵　西郷從道

醫術開業試驗

東京府下東京市	四月九日
大坂府下大阪市	五月十三日
長崎縣下長崎市	四月十九日

長崎に於ては齒科試驗を施行せず藥劑師試驗

東京府下東京市	六月　七日
大阪府下大阪市	六月　五日

○訓令通牒等

●内務大臣は滊車檢疫に關する訓令を發せられ●大浦警視總監は兵庫縣知事に向け府下大森、品川、新橋停車塲に於て滊車檢疫の事を通諜せり其他古綿搬出の禁令荷物取扱法及ひ消毒方法の注意を與へらる●東京府知事及市長は何れもペスト豫防の告諭を發せられたり

食物調理法

●ビフテーキ　（第二）

牛肉を二寸許り厚み二三分の平切にし其兩面へ食鹽をふりおき燒鍋にバタを入れてこれを沸し其中へ玉葱人參など細かにしたるをいれてかき巡し少し色變りたる頃肉をいれていく度もかへして燒て用ふべし。

●カツレツ

牛肉を二寸計り厚み三分程の平切にし其兩面へ食鹽をふりまた米利堅粉をつけて新聞紙の上によくおてさへ鷄卵を割りてよくかきたて肉にぬりつけ其上へ又パン粉をつけて牛油にてあげてよし。

一あしらひは馬鈴薯の食鹽煮してつぶしたる抔用ゐるもよし

鷄肉を大きく切り前の如くして牛油にて揚たるは一等上の物にして風味よき物なりすべて鳥獸の何にても此の如くして用てよし。

●ロース

牛肉を大切の儘食鹽をふりかけ其上へ胡椒の粉をふりてブリキの盆にのせ蒸燒して後よき程に切り用ふ。

鷄の羽をとり腹を出し其中へ（パン）（唐リンゴ）（日本の飯）など詰めこみよくかき合せ糸にて結び食鹽をふりて前の如く蒸燒して後よき程に切りて用ふ。

但し蒸燒する時間は肉の切樣の大小によりて多小の差あることにいふ迄もなきことなれど先づ三十分よ

り二十分位と心得てよし。又火の加減にも心すべき事にこそ。

鴫の羽をさり腹を出し前の鶏の如くして燒くもよし此外何鳥何獸もすべて蒸燒は前の如くしてよし。

あしらひはパンを三角などに切り牛油にてあげたるを皿に敷きて其上へ鳥肉をのせ相當の妻を添へソースをかけて用ふべし。

◉パイ

牛油の未だ製せざると米利堅粉を交ぜ水を少し加へてこねかへしこれにて皿の如き器を作り其中へ一寸五分四方厚み二分位に切りたるをいれ胡椒の粉と食鹽をふりバタをも少し加へて其上へ又米利堅粉のこねたるにて蓋をなし五十分間計り蒸燒して後取り出しよき程に切りて用ふ。

右の如くして鶏肉をも燒くことあり米利堅粉の作り方前に同じ又此中へ他の野菜を交ぜて燒くもよき物なり。

◉サンドイチ

パンを二分計りの薄みに切り耳をさり兩面へ芥子のときたるとバタをぬりつけさて牛肉の鹽蒸にしたるを一分位の薄みに切りこれを前のパンにはさみいくへも同じく酢鮓の如く重ね紙に包みてよくおさへたるを出して用ふ辨當などには手がるにして大によし。

◉オムレツ

鶏卵を割りてよくかきたて食鹽砂糖にて味をつけこれを燒鍋に少し宛うつして燒き其中へ海老又は魚肉牛肉など味をつけて煮たるを充分細かにして少し計りいれ鶏卵にて包みたるを杓子にてかきあげ皿に盛りて用ふ。

◉サラド

西洋の菜をよく洗ひ葉ばかりを細かに切り其上へ赤

大根赤茄子など生の儘輪切にして添へソースをかけて用ふべし

サラドソースハ

酢三匕　サラド油二匕　鷄卵一個　砂糖少々

右をよくかき交ぜて用ふるなり

野菜二三種

西洋獨活を湯煮して食鹽にて味をつけをきパンの切りたるを燒きて湯をかけ和かになりたる上へ前の獨活をのせソースをかけて用ふべし。

此ソースは牛乳に食鹽バタ少し交ぜてかけるなり。

◉マハシポテ

馬鈴薯を湯煮してよく摺りつぶし裏ごしゝたるに牛乳とバタ食鹽少し宛加へよくかき交ぜて用ふ。

菠薐草を湯煮し牛乳と食鹽にて味をつけて用ふべし何菜にても此の如くして用ひてよし。

◉貝類二三種

蠣貝をさつと湯煮し布巾にて雫をさり米利堅粉と鷄卵のときたるを交ぜてぬりつけ牛油にて揚げて用ふ。

但し蠣に限らず何貝にても同じ。

蠣貝を洗らひ水氣をさりおき牛乳を沸し其中へ貝を入れ食鹽胡椒の粉少し宛加へて鹽梅しよくかき巡しながら文火にて煮て用ふ。

油にて揚げたるを蠣のフライといふ牛乳にいれたるは蠣貝のミルクスープといふとぞきゝぬ。

◉魚二三種

何魚にても煮立たる湯に投じて煮々たる頃ブドウ酒をふりかけさて其中へ鷄卵の黄身一ツと米利堅粉少しをいれてかき巡しトロ／＼になりたるを魚を盛りたる上へかけてよし。

何魚にても皮及び骨をさり充分細かにし鹽湯にて煮

おき其中へ馬鈴薯を湯煮してつぶし裏ごしかけて交ぜ合せよき程の丸形にして焼鍋に油をひきて裏表とも焼きて用ふべし。

鮭などよき程に切りて食鹽をふりて蒸しながら時々葡萄酒を上よりふり懸け皿に盛りて後ソースをかけて用ふ。

此ソースは牛乳に食鹽加へてかき巡しながら煮たるを用ふ。

又魚肉の切りたるに食を鹽をふり鶏卵をぬりパン粉をつけて牛油にて揚たるもよき物なり。

又パタを沸して其中へいれ焼きたるもよし。

●牛肉のかばやき

牛肉を充分扣敲きこれに生姜のすりたると鶏卵及び麥粉を交ぜ合せよき程に圓め胡麻油にて揚げて後串にさし味淋を少し加へたる醤油をつけて火にあぶりてよし。但し圓めやう大なれば醤油も二三度つけてあぶるべし。

●牛の肉吉野煮

上等の牛肉を充分薄く切りこれに葛の粉をつけ研木にてよく打ち胡麻油にて揚げおき松魚の煮出しに味淋醤油にて味をつけ相當のあしらひを添へ前の揚げたる肉を煮て用ふべし。

又あしらひを用ひず肉斗りを煮て椀に盛り葵を添へて用ふるも上品にして風味よき物なり。

●牛肉のつけやき

牛肉を薄く切り刃物の脊にてよく扣敲きのばしこれの両面へ味噌のすりたるに味淋と醤油を交ぜたるをぬりつけ蒸焼にして用ふべし。

●牛肉の味噌煮

牛肉を細かに切り砂糖と水にてよく煑おきこれに玉葱きやべつ午房など細かに切りたるを交ぜてよく煮えたる頃味噌のすりたるを投じて鹽梅し猶始めの砂

糖にて甘み薄き時は味淋砂糖を加へ暫し煮て用ふべし。

◉牛肉のはやし

牛肉を五分四方の采目切にしこれを胡麻の油にて揚げ他に人參午房芋なども二三分四方の采目に切り湯煮し置たるを交ぜ前の肉を揚げたる鍋の油氣ある中へ投じ味淋醤油砂糖にて味をつけ一煮して用ふ。但しはやしは少しつゆけのあるをよしとす。

◉やまとシチウ

牛肉の細かに切りたるを鍋に双べて一切宛裏表ともかへして焼きこれに湯を少し加へ暫し煮置き人參玉葱芋など細かに切りこれを投じて又煮置き和らかに成りたる頃醤油と砂糖を加へて鹽梅し葛粉を水にてときてこれをうつしいれよくかき巡し生姜の絞り汁を少しあしらひて用ふべし。

◉御斷り　記事輻輳の爲め養生淺説及質疑欄を休む

大日本婦人衞生會記事

◉大日本婦人衞生會第九十次例會

◎十二月二日第一土曜日午後一時より赤坂表町赤坂區役所樓上に於て本會の例會を開きたり當日は本會總裁　小松若宮妃殿下には午后二時御臨場あらせられ川口別當及同夫人も扈從仰せ付けられたり役員一同は玄關に奉迎濱尾副會長の御先導にて階上設けの室に御小憩會場へ成らせられたり第一席は警察醫長醫學士山根正次君のペスト病豫防法に關する演説あり第二席理學博士飯島魁君には珊瑚及眞珠等の性狀採取法等に就き珊瑚眞珠及諸種珍奇なる貝類寫眞等を陳列して一々實物によりて説明せられ右終りて殿下には御歸館あらせられ續いて散會せしが當日は赤坂警察署長及同警部一

名參會せられしが出席員凡そ二百五十餘名にして役員には濱尾副會長、鳩山、高木、松平芳子、三浦、羽田、西升子等出席せられたり

因に記す赤坂區長近藤政利君には同區役所借用上に付大に便宜を與へらる玆に謝意を表す。

●大日本私立衛生會のペスト豫防協議會

同會は今回ペスト病の神戸に發生するや夙に該豫防法を編輯して汎く一般に頒布せらるゝなど其注意周到敏捷ならざるはなし本會へも長與副會頭より數十部寄送せられしをもて本會は本日の例會に於て其厚意を報告して來會者に分ち又本號にも記載することとなせしが倘來る十日にはペスト病豫防上に就き大家諸氏を楷行社に招待して同會の意見をも述べ大に豫防策を講ぜらるべしといふ輦轂の下別して衛生上の注意緊要の折柄有益なる會合と云ふべし本會も土方會頭よりの案内狀に接したるが其景況は參會上次號に掲載すべし

●日本産科婦人科學會

同會は豫期の如く去月二十五日上野精養軒に於て其發會を開かれたり來會者凡二三百名會主なる楠田謙藏君には先づ開會の趣意を述べ醫學博士土肥慶藏君には淋毒菌に就て同細菌研究の歴史より延いて其形狀培養法等泰西諸大家の說を引用してゴノコッケンは即淋毒の原因なることを說かれ醫學博士大澤岳太郎君には泌尿生殖器の發生に就き泌尿器と生殖器とは密接の關係あることより其發生の順序等に就き一々圖に對照して演述せられ右終りて會員一同撮影再び會場に參集倘演說を繼續せり時間の經過せしを以て櫻井郁二郎君には子宮外姙娠の實驗一二例を簡短に演述せられ醫學士丸茂文良君には卵巢及子宮の

全剔出に就き剔出したる子宮の實物を示して例の快辯を奮はれ續いて醫學士佐藤恒久、長谷川寛治、紀野好學、金杉ドクトル博士近藤次繁、ドクトル長與稱吉、ドクトル井上達七郎諸氏の演述あり終りて一同懇親會を開きしとのことなるが何れも平素の實驗談を報告して誠に有益なる會合なりき本會も楠田會主よりの招待に接したるをもて參會せしが用事の爲め中途退場せしをもて其詳細を悉すこと能はず

廣告

會報

◉左の會員諸氏は本月以降本會發達助成の爲め左の如く會員の種類を變更せられたり

（順次不同）

特別會員	舊通常會員	三宅ふじ子
特別會員	仝	三浦敬子
特別會員	仝	木内磯路子
特別會員	仝	宮本樂子
特別會員	仝	金杉松子
特別會員	仝	菊池たつ子
特會會員	仝	足立清子
特別會員	仝男爵夫人	岩崎早苗子
特別會員	舊通常會員	青山孝子
特別會員	仝	高山愛子
特別會員	仝	長與園子
特別會員	仝	濱田捨子
特別會員	仝男爵夫人	野田すみ子
特別會員	舊通常會員	佐藤梅峯子
特別會員	仝	大隈熊子
特別會員	仝男爵夫人	本田梅子
特別會員	舊通常會員	佐々木芳子
特別會員	仝	福原とく子
特別會員	仝	吉田よし子
特別會員	仝	松岡光子
特別會員	仝	原れい子
特別會員	仝	佐藤らく子
終身會員	仝侯爵夫人	前田朗子

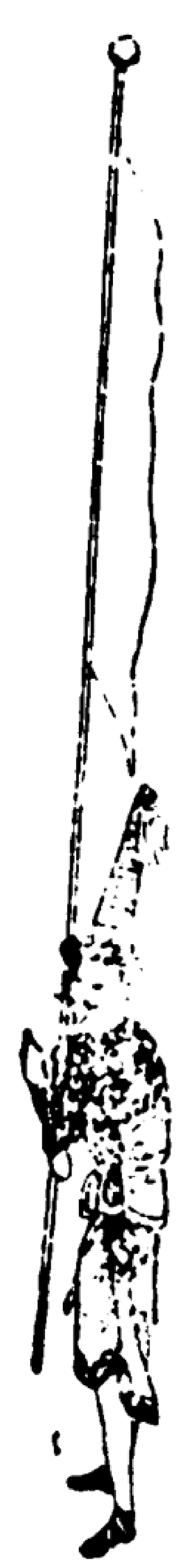
特別會員　舊通常會員　大森八重子
特別會員　仝　穗積まつ子
特別會員　仝子爵夫人　三好梅子
特別會員　舊通常會員　樫村榮子
特別會員　仝　竹屋雅子
特別會員　仝　菊池みね子
特別會員　仝　須田いそ子
特別會員　仝　古市こう子
特別會員　仝　尾崎いと子
特別會員　仝　相馬陸子
特別會員　仝　森田きみ子
特別會員　仝　鹿嶋こと子
特別會員　仝　園田勤子

弔詞

●本會通常會員なる公爵夫人一條頁子、河鰭美知子には今回死亡せられたるを以て本會は謹みて哀悼の意を表す

●歳晩謹告

本會は會員各位の御盡力により次第に隆盛に向ひ入會者及特別會員の多數を得るに至りしは誠に欣舞の至りに堪へざる處なり願ふに今日の狀勢によりて進み行かば有益なる女子の一團躰として世界に頭角を顯はし日本女子團結の鞏固なることを四海に發表して日本婦人の品位を高め一層國威を宣揚するの期も又遠きにあらざるべしこはもと會員諸氏協力の如何によることとなれば今や年の將に暮れんとするに際し尚明年を期してますます本會の發達を助成せられんこと切望の至りに堪へざる處なり



本會入會者報告

（自十一月中旬至十二月中旬）

○役員宮本樂子紹介
●本所區若宮町五十四番地　通常會員　志賀かま子

◎役員伯爵夫人松平充子紹介

●芝區三田綱町一番地　特別會員 伯爵夫人　徳川知子
●本所區松井町三ノ二　終身會員　本多幸子
●本所區緑町二ノ二十四　終身會員 伯爵夫人　牧野美子
●四谷區元鮫ヶ橋町五十八　通常會員　瀧浦たき子

○會員磯部よし子紹介

●小石川區江戸川町一番地松井賢次郎方　通常會員　宮川千代子

○會員市村三保子紹介

●麹町區下六番町十三番地　通常會員　松澤乙加子

○會員武富すみ子紹介

●赤坂區氷川町三十六番地　通常會員　眞崎登代子

○幹事鳩山春子紹介

●牛込區市谷加賀町二ノ十六　通常會員　西郷信子

○會員野川やす子紹介

●長崎市東中町　通常會員　玉林あや子

○會員岩井千代子紹介

●日本赤十字社奈良支部　通常會員　武田かめの子
●日本赤十字社奈良支部　通常會員　堀江ふみ子
●日本赤十字社奈良支部　通常會員　音成てふ子
●日本赤十字社奈良支部　通常會員　小川たね子
●日本赤十字社奈良支部　通常會員　小川きよ子
●日本赤十字社奈良支部　通常會員　山名小政子
●日本赤十字社奈良支部　通常會員　佐武しな子
●日本赤十字社奈良支部　通常會員　吉岡しけの子

●奈良縣磯城郡田原本町字魚町　通常會員　由井冬子

○事務所へ申込

●京都市同志社女學校　學生　長光喜世子

○會員志村小垣子紹介

●日本橋區久松町二十九杉浦方　學生　高梨りん子

○會員村山すゑ子紹介

●京橋區南鍛冶町十七　通常會員　橋本くら子

○事務所へ申込

●麹町區富士見町一ノ二十八　通常會員　木島美濃子

○會員關輪千代子紹介

●神田區花田町六番地關輪方　學生　館野いち子
●神田區花田町六番地關輪方　學生　館野しげ子

○會員矢部ふさ子紹介

●神田區仲猿樂町ノ十七　通常會員　井本秀子

○會員双木せう子紹介

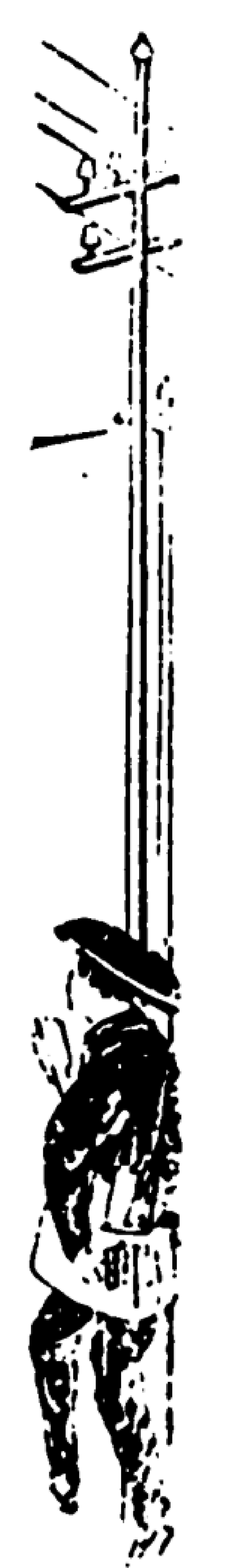
●帝國大學第一醫院　學生　内田ゆき子

◎賛成員小林延之助君紹介

●新吉原仲の町　通常會員　山崎某子
●本所區向島洲崎町　通常會員　深津よね子

◎會員和田愛子紹介

●牛込區市谷藥王寺町三十八　學生　大塚しげ子
●牛込區市谷加賀町二ノ三十一　學生　頭山立子



轉居

●本郷區西片町十番はの五號へ　下瀬勝千代子
●武州八王子元子安八秋山方へ　秋山盼子
●麹町區土手三番町二十九生源寺方へ　長志賀子
●牛込區東五軒町二十三へ　山川二葉子
●長野市旭町十二へ　松村ゆきえ子
●赤坂區裏町二ノ十三へ　鹿島いさ子
●清國牛荘横濱正金銀行出張所へ　中村くら子
●淺草北三筋町五十七番地高林方へ　寺田さく子
●牛込區辨天町四十へ　島見ろく子
●赤阪區靈南阪町十九へ　山田登利子
●芝公園二十一號地金池院へ　杉いそ子
●麻布仲ノ町二十へ　久田あい子
●京橋築地三ノ十五へ　岡田せい子
●京橋北紺屋町十五へ　高松よし子
●小石川茗荷谷九十へ　青戸さく子

改性

◉會員太田えみ子は今回堀野えみ子と改性せられたり

◎寄送書籍

通俗眼病トラホーム講話

右はドクトル井上達七郎氏の著書にしてトラホームの病歴豫防等懇切に詳述して漏すなし同病は陰に陽に蔓延の折柄有益の著書と云ふべし發行所は神田鍛冶町朝香書店なり

●新潟支會中野えつ子の上京

同氏は今回新潟支會よりの公務を帶びて同じ役員なる中村しげ子と共に上京せられたり兩氏は支會の爲め盡力淺からぬことなれば役員諸氏は去月六日兩氏を麹町富士見軒に招待し慰勞會を兼て役員會を開き支會よりの交渉等に付熟議を遂げ終つて立食の饗應ありき當日は濱尾副會長、鳩山、穂積、松平芳子、宮下、三浦の六幹事及西升子、南部隈子、松平充子、馬渡、三井晴子(イロハ順)等の評議員其他二三の出席者ありき

●寄送及交換雜誌

大日本私立衞生雜誌	大日本私立衞生會
通俗衞生	大坂私立衞生會
女學講義	女學會
藥石新報	同社
東京衞生新聞	同社
埼玉衞生雜誌	同社
藥學雜誌	藥學會
體育	日本体育會
國家醫學會雜誌	同會
教育實施界	育成會
越佐教育雜誌	同社
婦人新報	同社
產科婦人科學雜誌	同社
統計集法	東京統計協會
工業雜誌	同社

●廣島衞生日報 ●彰善會 ●運動會 ●高知及三重衞生雜誌 ●淑女等

(以下次號)



農商務省貿易品陳列館及び上野公園
商品陳列館に上等人力車出品有之候

保險附人力車大販賣廣告

弊店儀從來人力車製造販賣罷在候處大方諸彥の御引立を蒙り日に增し盛大に相成候段辱奉深謝候弊店製造の人力車は車躰構造の堅牢なること形狀の格好よきこと殊に車の出方至て輕くして輓子の勞力を省き且皆樣方のお乘好きこと等は已に世人の定論も有之候猶今後益々大勉强を以て製造販賣仕候間何卒陸續御用被仰付度伏て奉希候謹言



漆細工は本邦特有の技術に有之候へば益々改良進步の道を謀り益々邦人の技能を發揮せさるへからざることに御座候然るに當業者多くは目前の利を計り粗造品を製出致し候ため終に內外人の不信を來し我が特技たる斯業を今や振らざるに至り候は實に慨嘆の至りに堪えず候小生大に感ずる所有之乍不及徐々挽回の策を講ぜんことを自任仕り以後器物其他塗物一式極堅牢に仕揚げ御注文に可應候間御用向の節は何品に不係御一報被成下候はゝ早速參堂可仕候頓首

東京本鄉春木町二丁目五十六番地

保險附人力車製造販賣店

伊東竹三郎

●私立大日本婦人衞生會規則摘要

一 本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衞生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

一 會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

一 入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込むべし入會者には會員證を交付す

一 會員を分ちて終身特別及通常の三種とす
終身會員は一時に金拾圓以上特別會員は一ヶ月金貳拾錢以上通常會員は一ヶ月金拾錢を納むるものとし學生其他事故ある者は減額して金七錢を納むるものとす

一 男子にして本會の旨趣を賛成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じと雖も本會に功勞あるもの又は本會に於て特別贊成員たることを望みたる者は役員會協議に依り無會費とすることあるべし

一 會員は本會に於て毎月發行する雜誌を無料にて受ることを得

一 退會せんとする者は會員證を添へ本會事務所に報知すべし死亡する時は親戚知友より通知すべし

一 集會に例會總會及評議會員とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし通常第一土曜日午后一時より開會するものとす
但毎會學識經驗ある者に衞生上の講義演說談話を囑託し會員をして隨意聽講せしむるものとす

一 會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を陪聽せしむるを得

一 講議演說等は男子の傍聽を禁す但贊成員若くは會員縁故ある男子は此限にあらずと雖も贊成員の外は本會の都合に由り臨時謝絕することあるべし

●支會

一 地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得

一 本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載し申出づべし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報知すべし

一 本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす尙詳細は本會事務所へ承合すべし

注意

一 會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便取扱所（赤阪溜池便郵取扱所）宛振出あるべし

一 會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵劵にて納むるものは受領證送費として別に郵劵二錢を添へらるべし
但止むを得ざる場合には郵劵を代用するも妨げなしと云へども總て一割增とす

一 轉居せられたるときは其旨直ちに本會事務所宛通知せらるべし

一 會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざるものは役員會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

廣告料	
一頁	金二圓
半頁	金一圓
一行	金六錢五厘
總て前金とし割引なし	

本誌定價 壹部 金貳拾錢 毎月一回發行

發行所 東京市赤坂區仲ノ町十八番地 私立大日本婦人衞生會

編輯兼發行者 東京牛込區矢來町三番地 田中德三郎

印刷者 東京牛込區矢來町三番地 吉岡嚴八

印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工塲

（明治二十六年四月四日遞信省認可）